



認 定 書

国住指第 3717 号

平成 21 年 9 月 15 日

因幡電機産業株式会社

代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 金子 一義



下記の構造方法等については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第129条の2の5第1項第七号ハ〔防火区画貫通部1時間遮炎性能〕の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0448

2. 認定をした構造方法等の名称

ケーブル/ポリオレフィン混入炭酸カルシウム充てん材/壁耐火構造/貫通部分
(中空壁を除く)

3. 認定をした構造方法等の内容

別添のとおり

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ケーブル／ポリオレフィン混入炭酸カルシウム充てん材／壁耐火構造／貫通部分
(中空壁を除く)

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 円形 (面積) 0.0201 m ² 以下 (φ160 以下)
占積率 (断面積) (開口部に対するケーブル断面積の総合計の割合)	仕様 1 : φ110 以下の場合 19.44%以下 (0.001847 m ² 以下) 仕様 2 : φ160 以下の場合 14.86%以下 (0.002987 m ² 以下) 仕様 3 : φ135 以下の場合 15.82%以下 (0.002264 m ² 以下) 仕様 4 : φ160 以下の場合 11.26%以下 (0.002264 m ² 以下)
貫通する壁の構造等	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) A L C 壁厚 100 以上 (2) コンクリート 壁厚 100 以上 (但し中空壁を除く)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造	
ケーブル	総発熱量	仕様 1 : 55, 196kJ/m 以下 仕様 2 : 90, 351kJ/m 以下 仕様 3 : 64, 357kJ/m 以下 仕様 4 : 64, 357kJ/m 以下
	総導体断面積	仕様 1 : 0. 000750m ² 以下 仕様 2 : 0. 001200m ² 以下 仕様 3 : 0. 000975m ² 以下 仕様 4 : 0. 000975m ² 以下
	規格	次の規格のうち、いずれか一仕様とする JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠, JCS 第 224 号, 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号準拠, 第 4364 号準拠, 第 5381 号準拠, JCSC 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 3502 号, 第 5382 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号準拠, 第 9072 号準拠, TIA/EIA 568A TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造	
ケーブル	外径	仕様 1：より合わせ外径 61 以下 仕様 2：より合わせ外径 61 以下 仕様 3：より合わせ外径 67 以下 仕様 4：より合わせ外径 67 以下
	導体断面積	仕様 1：250mm ² /本以下 仕様 2：250mm ² /本以下 仕様 3：325mm ² /本以下 仕様 4：325mm ² /本以下
	本数	総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下且つ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下
	導体種類	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム
	絶縁体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) 合成ゴム系樹脂
	シース	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) 合成ゴム系樹脂
	介在物	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) 紙 (2) ジュート (3) ポリプロピレン (4) なし

(寸法単位：mm)

項目		申請構造	
防火措置材料	ポリオレフィン混入炭酸カルシウム充てん材 (以下「耐熱シール材」という)	密度	1.30g/cm ³ 以上
		組成 (質量%)	
	充てん量	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 仕様 1、2 の場合 a) 金具内部：高さ 40 以上 b) 貫通口内部：高さ 100 以上 (2) 仕様 3、4 の場合 a) 金具内部：高さ 40 以上 b) 貫通口内部：高さ 100 以上 c) 壁面に設置した金具の高さ 40 の所より盛り上げ高さ 100 以上且つ厚さ 10 以上	
	被覆用テープ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) あり ・材 質 アルミガラスクロステープ ・被覆長さ 140 以上 ・厚 さ 0.25 (2) なし 仕様 1、2 の場合のみ	

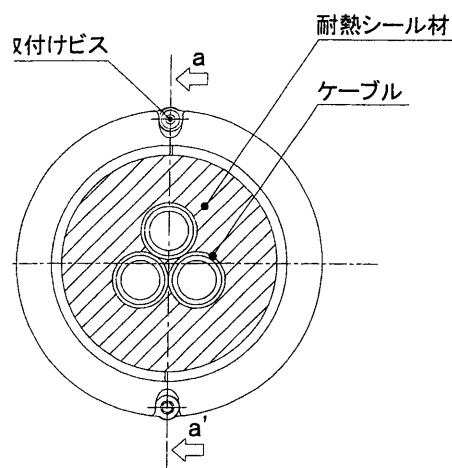
(寸法単位:mm)

項目		申請構造		
防火措置材料	金具	本体	材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 ・塗装 (5)、(6)の場合のみ 亜鉛めっき ・付着量 5 μ 以上
			厚さ	0.8以上
			呼び径	別添-8 参照
			高さ	40以上
			形状	別添-8 参照
		底板	材質	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) あり 1)～6)のうち、いずれか一仕様とする 1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 ・塗装 5)、6)の場合のみ 亜鉛めっき ・付着量 5 μ 以上 (2) なし
			厚さ	0.8以上
			呼び径	別添-9 参照
			形状	別添-9 参照
	取付けビス		タッピングビス ・寸法 M4.0以上×L25以上	

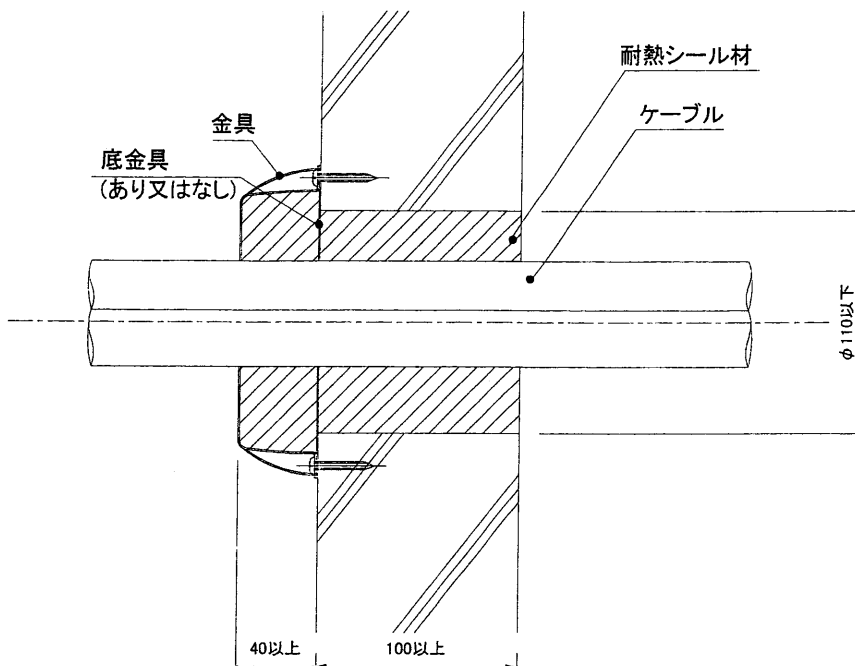
4. 構造説明図

(寸法単位：mm)

(1) 仕様 1 の場合

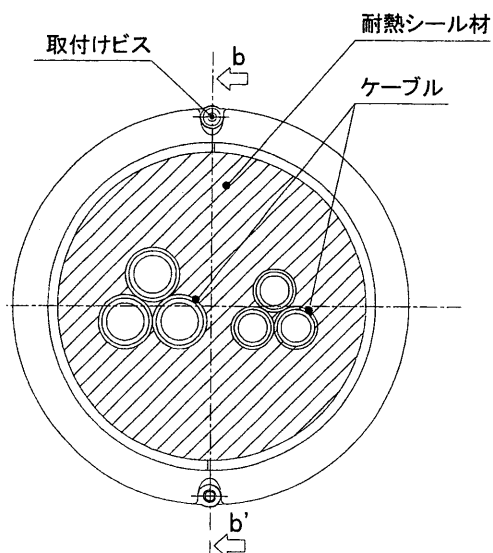


正面図

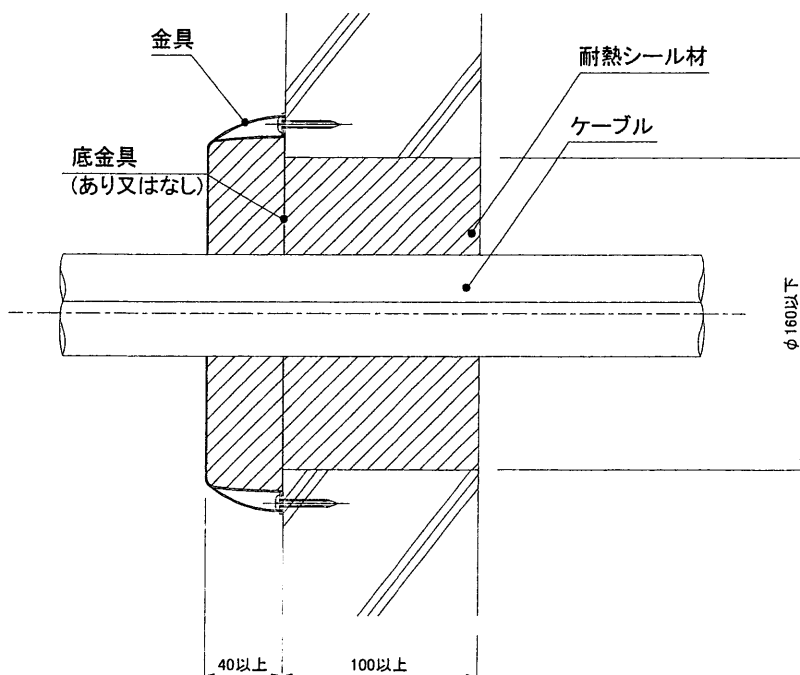


a-a' 断面図

(2) 仕様 2 の場合



正面図

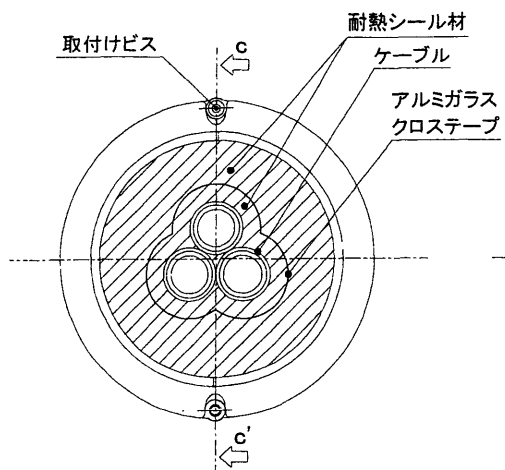


b-b' 断面図

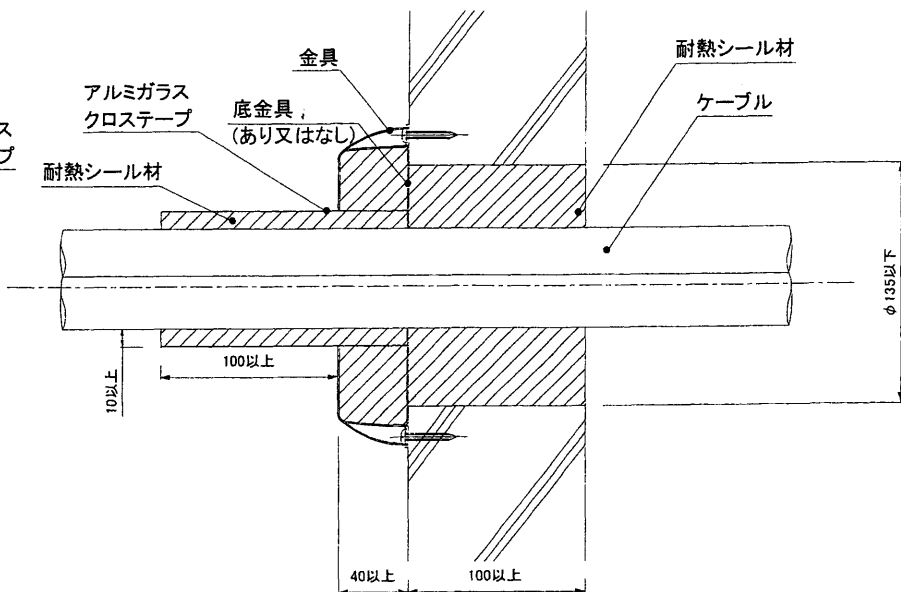
注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(寸法単位：mm)

(3) 仕様 3 の場合

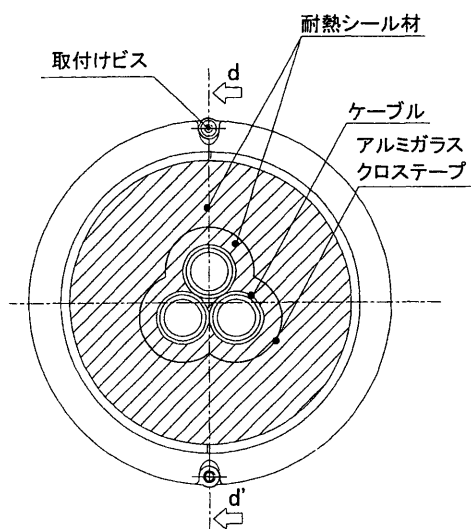


正面図

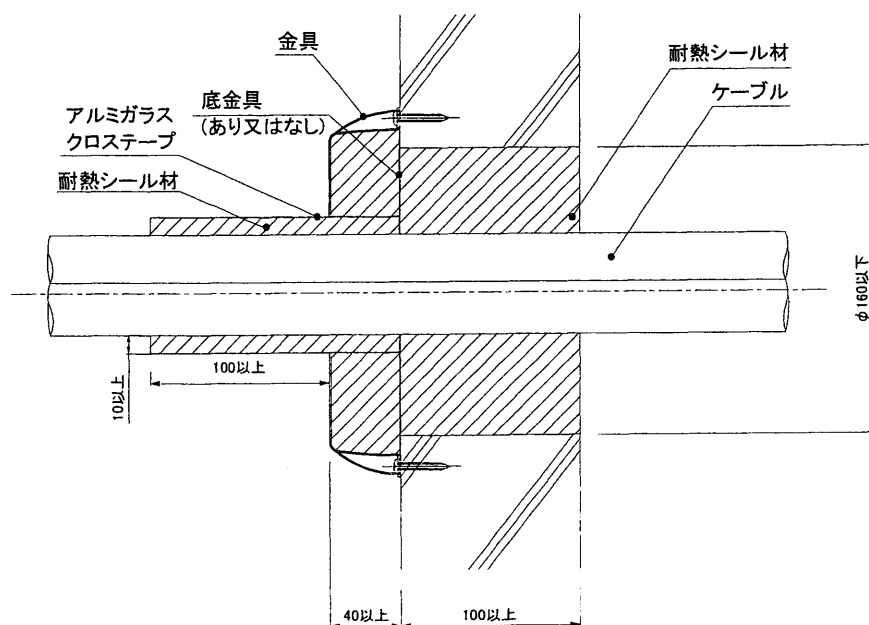


c-c' 断面図

(4) 仕様 4 の場合



正面図



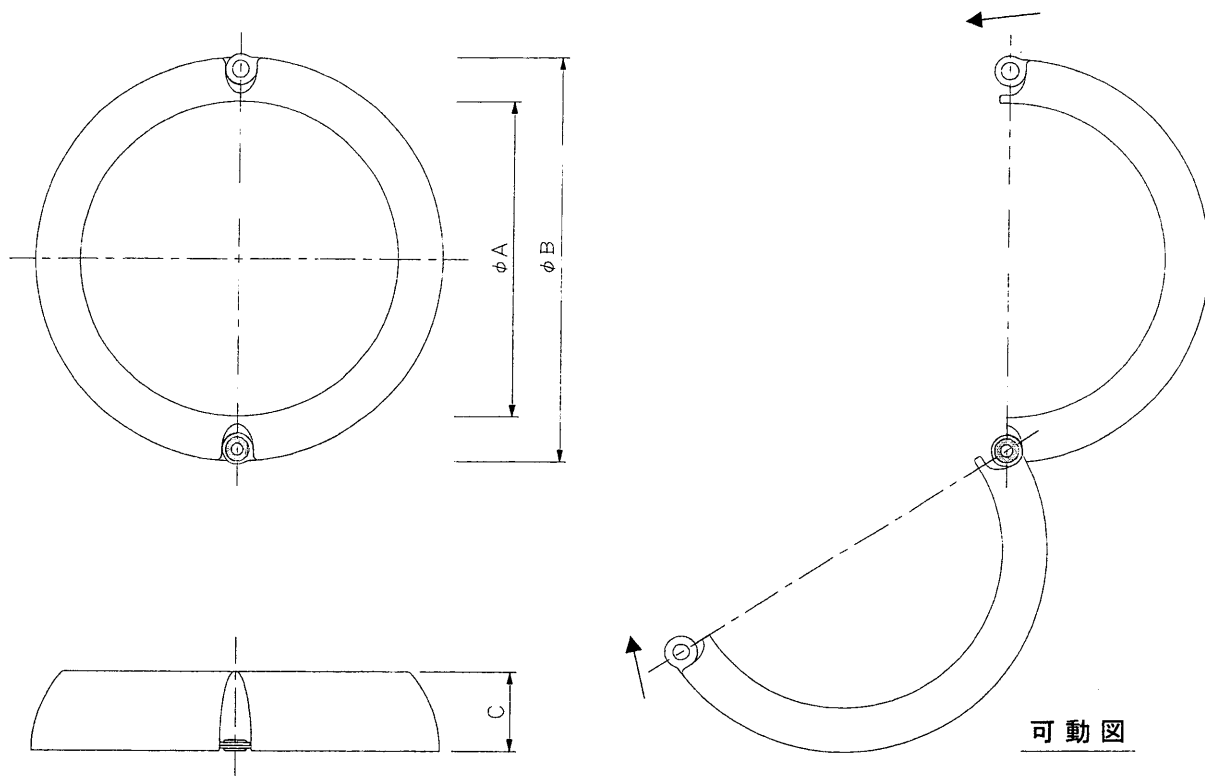
d-d' 断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(別添-7)

〈金具本体の詳細構造図〉

(寸法単位：mm)

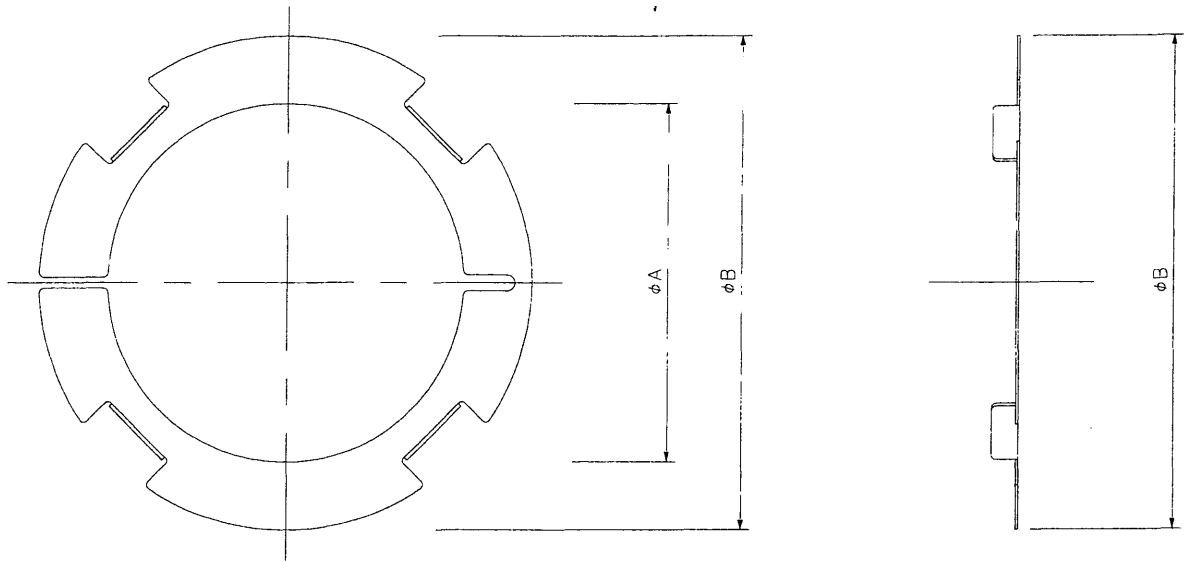


呼び径	適合開口径	金具内径 φ A	金具外径 φ B	金具高さ C
50	φ 60 以下	φ 57	φ 102	40 以上
75	φ 85 以下	φ 82	φ 127	
100	φ 110 以下	φ 107	φ 152	
125	φ 135 以下	φ 133	φ 178	
150	φ 160 以下	φ 158	φ 203	

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

<金具底板詳細構造図>

(寸法単位：mm)



呼び径	適合開口径	金具内径 φ A	金具外径 φ B
75	φ 85 以下	φ 45	φ 92.5
100	φ 110 以下	φ 65	φ 118
125	φ 135 以下	φ 85	φ 143
150	φ 160 以下	φ 105	φ 168

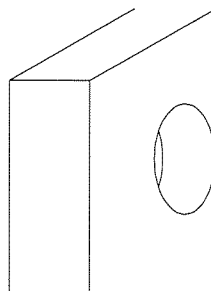
注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

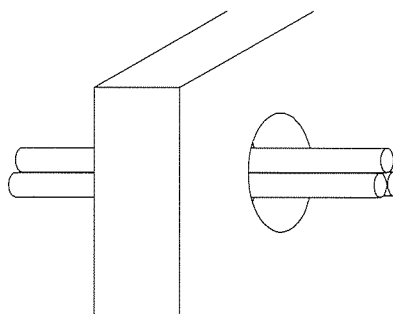
①貫通孔を設ける

最大開口径を考慮し貫通孔を設ける。



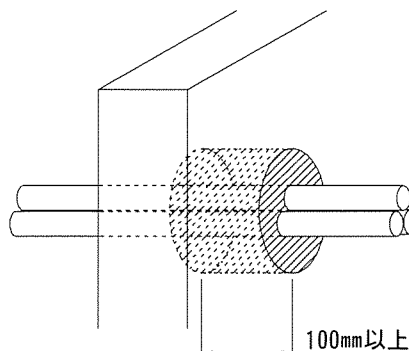
②ケーブルの配線と貫通内部の防火措置

ケーブルを配線（通線）して支持・固定する。



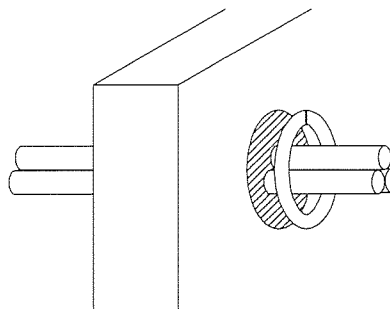
③貫通内部の防火措置

貫通内部のケーブル以外の空間に 100 mm 以上になるよう耐熱シール材を充填する。



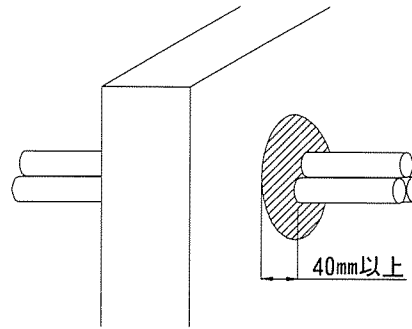
④金具（底板使用の場合）の挿入

金具（底板）をケーブルに通し、壁に仮固定する。



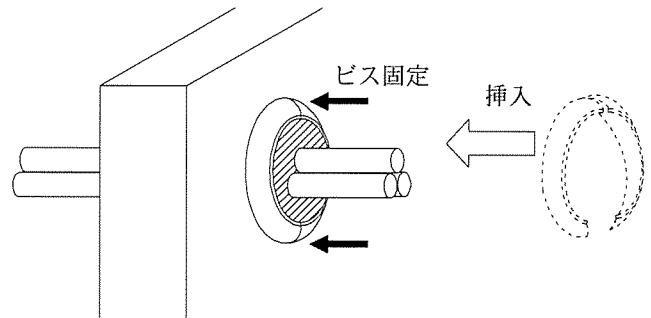
⑤耐熱シール材の盛り付け

耐熱シール材を壁面から 40 mm以上の高さになるように盛り付ける。



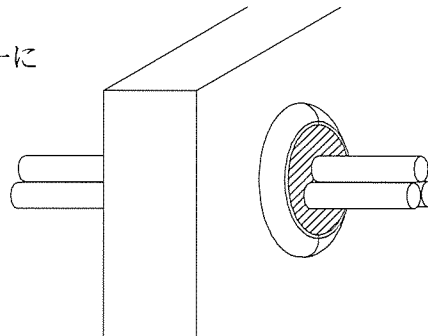
⑥金具 (本体) の取付

金具 (本体) で耐熱シール材を包み、壁に金具をビスで固定する。



⑦仕上げ

金具の内部に隙間が無いよう、また、面一に耐熱シール材を充てんする。



⑧ 補足

※ ケーブルの導体断面積が 1 本あたり 325mm^2 /本以下の場合は、ケーブルの周りに下図のように盛り上げ高さ 100 以上且つ厚さ 10 以上となるように盛りあげ、外周にアルミガラスクロステープを巻きつける。ただし、1 本あたり 250mm^2 /本以下の場合はこの限りではない。

